

地域共創 シンポジウム 報告書



1.シンポジウム概要

企画書内容

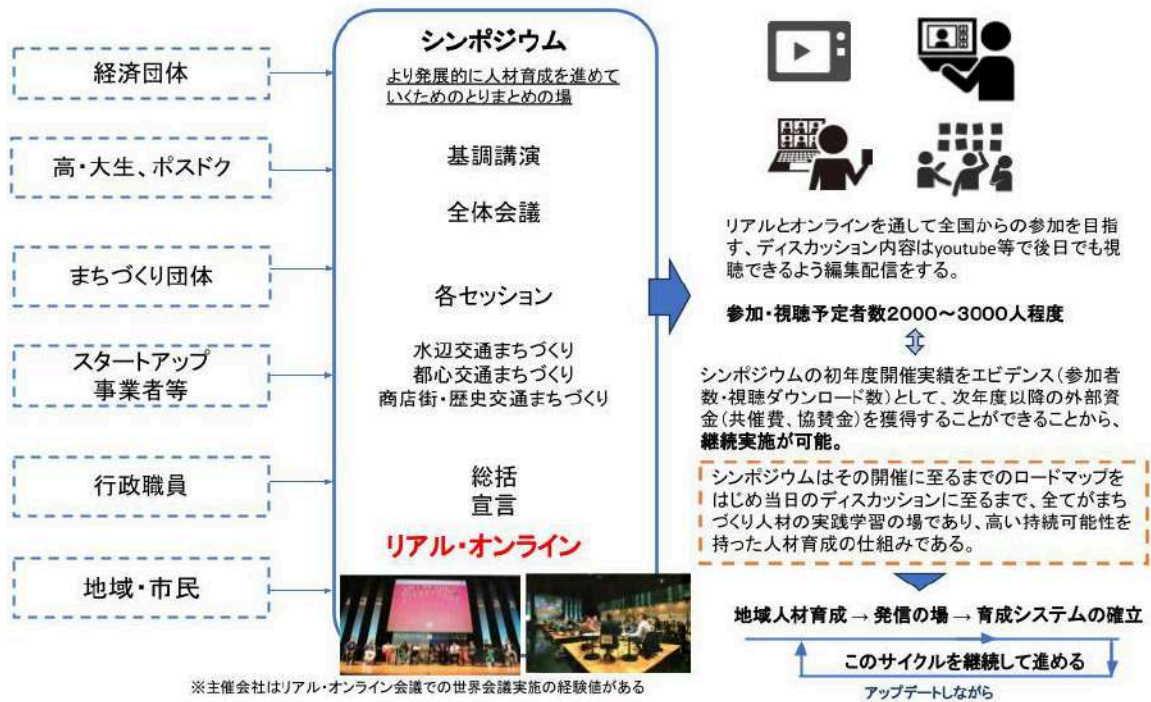
○グローバルナビゲーション

4. シンポジウムによる情報発信とその連鎖

③-補足資料 4/5

第1回地域共創シンポジウムの開催(次年度以降の継続事業)

上記まちづくり団体共催により、委託事業により育成した参加者を動員し、複数セッションで構成されたシンポジウムを開催する。「ローカルインフラの創出(リ・デザイン)を始めとする共創と地域一体型の魅力発信」をテーマに、広い活動分野の者同士が交流、ディスカッションすることで、交通まちづくり人材としての深化を促進する。



2. 広報・宣伝

プレスリリース内容

報道及びご取材のお願い

<報道関係各位>

2024年1月5日

主催：名古屋共創まちづくりコンソーシアム

◆地域モビリティがつなぐ・創る、“新しい交通まちづくり”のミライ◆
地域共創シンポジウム (令和5年度国土交通省共創モデル実証プロジェクト)
令和6年1/27(土)名古屋・中京テレビプラザCにて開催！

もっと自由にアクティブに！楽しく快適な「移動」が、名古屋をどう変える!?
地域モビリティ&インフラを「まちづくり」の視点から語り合う1日

#スマートモビリティ #コンパクトシティ #空中移動 など、地域を往き来する移動＝モビリティシステムの重要性、可能性が各分野で注目、期待されています。

名古屋圏でも都市・地域・まちづくりの視点のもと、ローカルインフラを整備・連携させることで「最適な街づくりデザイン」を実現できる社会を目指して。名古屋地域のまちづくり協議会やエリアマネジメント会社等を一堂に集め、『地域共創シンポジウム』を開催する運びとなりました。
写真提供：Zip Infrastructure株式会社



【日時】2024年1月27日(土) 13:00～17:00 (12:30開場)

【開場】中京テレビ1階 プラザC (名古屋市中村区平池町四丁目60番地11)

【参加無料／会場：定員250名／オンライン参加可能】

【主なプログラム】 (以下敬称略)

●まちづくりリレートーク「名古屋のまちづくりプレイヤーたちの挑戦」
名古屋市内の水辺交通／都心交通／商店街・歴史交通のまちづくり団体がそれぞれに考える「ローカルインフラの創出(リ・デザイン)を始めとする共創と地域一体型の魅力」について発表します。

●基調講演「近未来の交通に向けて」
新しい公共交通、空の流通・交通を目指すトップランナーが登場！

Zip Infrastructure株式会社 代表取締役 須知高匡

株式会社プロドローン 代表取締役社長 戸谷俊介

●ミニ公演「まちづくりプロたちによるトークセッション」など
<全体コーディネーター>井澤知旦(名古屋学院大学名誉教授) <司会・進行>佐野瑛厘
<モデレーター>安藤 章(株式会社日建設計総合研究所), 岩本唯史(株式会社水辺総研)

この記事のお問い合わせ・取材お申し込みは下記までお願いいたします。

名古屋共創まちづくりコンソーシアム

(事務局：一般社団法人中川運河チャンネルアート)

Email: info@arkadas.co.jp 公式サイト: <https://kyoso-nagoya.jp>

チラシ内容

新しい交通まちづくりの提案
地域共創シンポジウム

ローカルインフラの創出（リ・デザイン）を始めとする
共創と地域一体型の魅力発信

2024.1.27(土) 13:00-17:00
【開場 12:30】

参加無料
定員250名
オンライン参加可能

中京テレビプラザC
名古屋市中村区千代田町西千代6-1-1

1 スロガラム

- 13:00 オープニングトーク
- 13:10 まちづくりリレートーク
名古屋駅をづくりアドバイザーたちが次に目指すもの
- 13:30 ミニ講演
- 14:30 近未来の交通に向けて
デイスカッション
- 15:30 まちづくりパイロたちによるトークセッション
ゼロインパクト、オー
- 16:40 まとめと賞状

2 申込方法

参加ご希望の方は、こちらから事前にご登録ください。
<https://www.nagoya.jp/ev/>

3 リレートーク

4 登壇者

5 会場アクセス

6 お問い合わせ

主催 名古屋共創まちづくりコンソーシアム
協賛 地上交通都市環境戦略 名古屋大学 中京府共創委員会 中京府防災委員会
名古屋商工会議所 中京電力(株) JAPFC(一般社団法人日本プロジェクト産業協議会)

お問い合わせ <https://kyoso-nagoya.jp/>
アルカディア株式会社
052-711-9828 info@alucadia.jp

【基調講演】

須崎 高広 Zep Infrastructure 株式会社
交通政策、特に公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

戸谷 俊介 株式会社プロローグ
株式会社プロローグ(株)の代表取締役社長。2010年創業。現在は、主に都市圏の公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

【ディスカッション】

安藤 章 株式会社 日経設計総合研究所
日経設計総合研究所 交通政策推進部/都市計画・交通政策推進部 部長。2010年創業。現在は、主に都市圏の公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

岩本 隆史 株式会社 水辺開発
株式会社水辺開発(株)の代表取締役社長。2010年創業。現在は、主に都市圏の公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

【リレートーク】

一般社団法人 申請課キヤナルアート
一般社団法人申請課キヤナルアートの代表取締役。2010年創業。現在は、主に都市圏の公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

同僚中継放送
名古屋大学(中)の同僚中継放送。2010年創業。現在は、主に都市圏の公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

合同会社 希りまっつん家守神社
合同会社希りまっつん家守神社の代表取締役。2010年創業。現在は、主に都市圏の公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

ささしまちづくりパイロ協会の
ささしまちづくりパイロ協会の代表取締役。2010年創業。現在は、主に都市圏の公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

名古屋三日月と下野をつなぐ
名古屋三日月と下野をつなぐの代表取締役。2010年創業。現在は、主に都市圏の公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

名古屋地下鉄
名古屋地下鉄の代表取締役。2010年創業。現在は、主に都市圏の公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

水辺とまちの入口ACT株式会社
水辺とまちの入口ACT株式会社の代表取締役。2010年創業。現在は、主に都市圏の公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

高橋 雅也
高橋 雅也の代表取締役。2010年創業。現在は、主に都市圏の公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

名古屋シェアリングサービス「チャリヤリ」
名古屋シェアリングサービス「チャリヤリ」の代表取締役。2010年創業。現在は、主に都市圏の公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

【会場/進行】

登壇者
本シンポジウムに登壇する方々。2024年1月27日開催。登壇者は、主に都市圏の公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

会場アクセス
本シンポジウムの会場アクセス。2024年1月27日開催。会場は、主に都市圏の公共交通政策の推進、及び、都市、都市圏の発展の推進の一助となる交通政策の推進。

<表>

- ・日程
- ・会場
- ・プログラム
- ・登壇者
- ・参加方法

<裏>

- ・登壇者や団体について
- ・会場アクセス

SNS (facebook) 内容

一部抜粋


中川運河チャンネルアート
作成者: 岩田真菜 ● 1月27日 17:00

【開催決定！】
地域モビリティがつかなく・創る。
「新しい交通まちづくり」の提案
「地域共創シンポジウム」
（令和6年度国土交通省共創モデル実証プロジェクト）
公式サイト: <https://kyoso-nagaya.jp/>

2024年1月27日（土）開催！
13:00～17:00（12:30開場）
会場> 中京テレビ1階 プラザC
名古屋市中村区平池町丁目60番地11
<参加無料>
会場: 定員250名 ※オンライン参加可能
▼参加申し込みはこちらから▼
<https://kyoso-nagaya.jp/form/>

●もっと自由にアクティブに！楽しく快適な「移動」が、名古屋をどう変えるのか？
地域モビリティインフラを「まちづくり」の観点から語り合う1日。
#スマートモビリティ #コンパクトシティ #空中移動 など、地域を住みやすにする移動=モビリティシステムの重要性、可能性が各分野で注目。期待されています。
名古屋でも都市・地域・まちづくりの視点のもと、ローカルインフラを基盤・連携させることで「磨きあがりデザイン」を実現できる社会を目指して。名古屋地域のまちづくり協議会やリアマネジメント会社等と一緒に事業を。語り合います。

【主なプログラム】（以下敬称略）
●まちづくりリレートーク「名古屋のまちづくりプレイヤーたちが次に目指すもの」
名古屋市内の水辺交通/都心交通/商店街・歴史交通のまちづくり団体がそれぞれに考える「ローカルインフラの創出（リ・デザイン）」を始める共創と地域一体型の魅力。について発表します。
●基調講演「近未来の交通に向けて」
新しい公共交通。近未来の交通を目指すトップランナーが登壇！
Zip Infrastructure株式会社 代表取締役 須田高広氏
株式会社プロドローン 代表取締役社長 戸谷俊介
●ミニ公演「まちづくりプロトタイプによるトークセッション」 など
全体コーディネート>井澤知日（名古屋学院大学名誉教授）
<司会>進行>佐野雅雄
<モデレーター>
安藤 暉（株式会社日建設計総合研究所）
岩本雅史（株式会社本辺研研）
<リレートーク>
田口大輔（自動車シェアリングサービス「チャリチャリ」）
加藤英史（名古屋市住宅都市局都市計画部交通事業推進室長）
加藤美和子（一般社団法人中川運河チャンネルアート）
田尾大介（内閣府商店街）
武井美里（合同会社ありまつ中心家守会社）
ささしまライブまちづくり協議会
秀島栄三（木曾三川と堀川・上下街をつなぐ交流会）
カワカミカコ（磨きあがりデザイン）
井村美里（水辺とまちの人口ACT株式会社）
主催: 名古屋共創まちづくりコンソーシアム
後援: 国土交通省中部運輸局/名古屋市中区経済連合会/中部経済圏友会/名古屋商工会議所/中部電力株式会社/JAPIC（一般社団法人日本プロジェクト産業協会）



中川運河チャンネルアート
作成者: 岩田真菜 ● 1月11日 17:00

【地域共創シンポジウム】
1月27日（土）に中京テレビ1階 プラザCにて開催
「新しい交通まちづくり」の提案「地域共創シンポジウム」では、各分野のまちづくりリレートークと併せて、新しい公共交通、空の交通、交通を目指すトップランナーによる基調講演「近未来の交通に向けて」に注目です！


●全土型都市型ロープウェイ Zepgarの開発をはじめ、「宇宙エレベーター」を見据えた次世代の交通インフラに注目Zip Infrastructure株式会社代表取締役須田高広氏 <プロフィール>
宮城県出身。幼いころから宇宙が好きで、大学では、超小型衛星や衛星探査ロープ(CANSAT)等の開発に携わる。宇宙エレベーターの昇降機の開発も経験するが、宇宙エレベーター実現のためには資金面と技術面の両方を注力することが必要と気づき、Zip Infrastructure株式会社を2018年7月に創業。星線機開発の技術を活かした交通インフラ「自走型ロープウェイ」事業を主にやっている。

●世界の産業用ドローンシステムメーカーをめざし、国内ドローン事業勃興期の2015年に創業した「PRODRONE」代表取締役社長の戸谷俊介氏 <プロフィール>
電通名古屋コミュニケーションズ(DMC)で国内外のモータースポーツ関連業務に従事。DMC東京支社勤務時に名古屋グループ「ドローン事業化部会」に参加。2019年の東京モーターショーでは、モータースポーツ知見を活かし、日本初OFAI（国際航空連盟）公認DTRC2019ドローンワールドカップと、空の移動革命に向けた交通インフラを開発。空の可能性に魅了され、2021年に株式会社プロドローンの代表取締役社長に就任。「目指すは空のスタンダード」を掲げる。

その他のプログラム
○まちづくりリレートーク「名古屋のまちづくりプレイヤーたちが次に目指すもの」
名古屋市内の水辺交通/都心交通/商店街・歴史交通のまちづくり団体がそれぞれに考える「ローカルインフラの創出（リ・デザイン）」を始めとする共創と地域一体型の魅力。について発表します。
○ミニ公演「まちづくりプロトタイプによるトークセッション」 など
安藤 暉（株式会社日建設計総合研究所）、岩本史史（株式会社水辺研研）をモデレーターに迎え、それぞれ視点から「共創」への足がかりについて語ります。

<全体コーディネート>井澤知日（名古屋学院大学名誉教授）
<司会>進行>佐野雅雄（敬称略）

「新しい交通まちづくり」の提案「地域共創シンポジウム」
（令和6年度国土交通省共創モデル実証プロジェクト）
公式サイト: <https://kyoso-nagaya.jp/>
2024年1月27日（土）開催！
13:00～17:00（12:30開場）
<会場> 中京テレビ1階 プラザC
名古屋市中村区平池町丁目60番地11
<参加無料>
会場: 定員250名 ※オンライン参加可能
▼参加申し込みはこちらから▼
<https://kyoso-nagaya.jp/form/>



中川運河チャンネルアート
作成者: 岩田真菜 ● 1月27日 17:32

【まもなく開催！】
地域モビリティがつかなく・創る。
「新しい交通まちづくり」の提案
「地域共創シンポジウム」
（令和6年度国土交通省共創モデル実証プロジェクト）
2024年1月27日（土）
13:00～17:00（12:30開場）
<会場> 中京テレビ1階 プラザC
名古屋市中村区平池町丁目60番地11
<参加無料>

もっと自由にアクティブに！楽しく快適な「移動」が、名古屋をどう変える行きますか。堀川、中川運河、円頓寺商店街、有松…名古屋のまちの文化活性の一翼を担うプレイヤーたちが登壇！

●まちづくりリレートーク
「名古屋のまちづくりプレイヤーたちが次に目指すもの」名古屋市内の水辺交通/都心交通/商店街・歴史交通のまちづくり団体がそれぞれに考える「ローカルインフラの創出（リ・デザイン）」を始めとする共創と地域一体型の魅力。について発表します。

田口大輔（自動車シェアリングサービス「チャリチャリ」）
加藤英史（名古屋市住宅都市局都市計画部交通事業推進室長）
加藤美和子（一般社団法人中川運河チャンネルアート）
田尾大介（内閣府商店街）
武井美里（合同会社ありまつ中心家守会社）
ささしまライブまちづくり協議会
秀島栄三（木曾三川と堀川・上下街をつなぐ交流会）
カワカミカコ（磨きあがりデザイン）
井村美里（水辺とまちの人口ACT株式会社）

●基調講演「近未来の交通に向けて」
新しい公共交通。近未来の交通を目指すトップランナーが登壇！
Zip Infrastructure株式会社 代表取締役 須田高広氏
株式会社プロドローン 代表取締役社長 戸谷俊介
●ミニ公演「まちづくりプロトタイプによるトークセッション」 など
<リレートーク>
安藤 暉（株式会社日建設計総合研究所）
岩本雅史（株式会社本辺研研）
<全体コーディネート>井澤知日（名古屋学院大学名誉教授）
<司会>進行>佐野雅雄
▼参加申し込みはコメント欄にて▼
会場: 定員250名 ※オンライン参加可能



中川運河チャンネルアート
作成者: 岩田真菜 ● 1月26日 14:54



2件以上

田尾 大介
1月24日 12:39
堀川で自動運転船の船がべたり、アーケード下で車走らせたり、新古野エリアを巡って名古屋駅と名古屋城をつなぐ第一歩踏み出しました！
今週末土曜日の下記のイベント
新しい交通まちづくり
～地域共創シンポジウム～
で少しお話ししますので、興味のある方はご参加を♪
<https://kyoso-nagaya.jp/>

中川運河チャンネルアートさんは中京テレビにいます。
作成者: 岩田真菜 ● 1月29日 11:23 ● 名古屋

2024年1月27日（土）に中京テレビプラザCにおいて
地域モビリティがつかなく・創る。
「新しい交通まちづくり」の提案
「地域共創シンポジウム」
（令和6年度国土交通省共創モデル実証プロジェクト）を
会場とオンライン配信で開催しました。
ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。
今後も当日の様子をHPでお伝えしていきます。

#地方共創シンポジウム
#新しい交通まちづくりの提案
#国土交通省
#国土交通省共創モデル実証プロジェクト
#中川運河チャンネルアート
#canalat



3.実施内容

概要

地域共創シンポジウム

～ローカルインフラの創出（リ・デザイン）を始めとする共創と地域一体型の魅力発信～
（国土交通省 共創モデル実証プロジェクト）

日時：2024年1月27日 13:00～17:00

場所：中京テレビ プラザC

【要旨メモ】

1. まちづくりリレートーク（名古屋まちづくりプレイヤーたちが次に目指すもの）

① 一般社団法人 中川運河キャナルアート 加藤実和子氏

・概要

中川運河を軸に、シンポジウムやアートイベントなどを実施。
2009年から任意団体として設立し2012年から一社として活動

・課題

中川運河の魅力発信をしているがなかなか周知が進まない。そこには「共創」が足りない。
周知が進まない理由は以下の3点

- ① アクセス → ここを今日は取り上げる
- ② 他団体とのコミュニケーション
- ③ 人材不足

・取り組み

アクセスという視点で、現在シェアサイクルに着目。
インフルエンサーとロゲイニング*の実証実験を行い1日のイベントで32万7千リーチを獲得
*観光地をチェックポイントとして時間内にできるだけ多くのポイントをめぐるスポーツ
移動に付加価値をつけるのは楽しさが必要。若者は楽しさに飢えている。
中川運河沿いは平坦でシェアサイクルと相性良いと考えており、今後活用していきたい。

② 水辺とまちの入口 ACT株式会社 井村美里氏

・概要

SUPなどの水辺に関するイベントに取り組んでおり水辺の活用を模索している。
名古屋の水辺は5つほどあるが、中川運河は「運河」で他と色合いが異なる。

川 自由に入ることができる。

運河 もともと物流用途で自由に入ることができない。

中川運河再生計画で、近年は行政側も「水辺」の活用に取り組んでいる。

・取り組み

水辺の活用でクルーズ、船に加えSUPのようなパーソナルな手段も取り組んでいきたい
と考えておりイベントやワークショップを実施。

<イベント>

「SUP 大行進」というイベントで中川運河でのSUPを行うイベントを実施。

イベント参加者からは「景観の良さ」「解放感」や、「非日常的」など好意的なコメント。
一方で、日常的にできるようになると良い、という声も。

<ワークショップ>

水辺の実践者（水中ドローン、SUP など）とのワークショップを実施。

ワーク：水面でやってみたいこと、水面活用に必要のことを意見だし

座学：行政手続き方法、安全性などを講習し理解促進

・今後

取り組みの重要事項として以下の4点に整理している。

- ✓水辺に目を向ける、やってみたい人を増やす
- ✓水辺に慣れている人がリーダーとなる
- ✓行政と連携して対話ができる人材育成をする
- ✓初めての人が利用できるようにする

③ 木曾三川と堀川・上下流をつなぐ交流会実行委員会 秀島栄三氏

・水上交通の意義

東京では通勤に使う実証も実施。

世界を見渡すとベネチア、ベルリン、アムステルダム、ロンドンなどは水上交通が盛ん

・木曾三川と堀川・上下流をつなぐ交流会

名古屋市民は木曾川の水を利用しており、上流の水を下流の市民は大切に使う必要。

15年ほどから上下流の交流を開始。春は下流が上流を訪問、秋は上流が下流を訪問。

木曾三川の船上ガイドを学生が体験。まさに OJT。

初めて来た人が多い場合は川自体の話を、詳しい人が多い場合は水辺の話を中心に。

乗船者も「学生さんは初めてなのによく頑張った」と高評価。

・今後の目標

マニュアル化、実践機会の拡充、DX など。

水上交通を楽しめる名古屋に。

④ 名古屋市 住宅都市計画部 交通事業推進室長 福田篤史氏

・SRT (Smart Roadway Transit) 構想

名古屋市は都心部まちづくりビジョンを策定し、新交通システム SRT 構想の実現に取り組む。

地域間連携・回遊性向上が課題で、H31に同構想を策定。

都心の風景を変え、新しい移動価値を構築したい。

「名古屋交通計画 2030」では、SRT の段階的な導入を進める方針。

当初運行は名古屋-栄間を予定。昨年度は連結バスを実証し、2日間で600人が乗車。

アンケートでは多くの人から「楽しい。まちのシンボルにしたい」とのご意見あり。

・バス乗降待合空間の有効活用

バス乗降待合空間にベンチ・テーブルやデジタル案内板を設置中。

バス停にはベイ型とテラス型が存在。テラス型は正着しやすく、京都でも実証中。
待合空間の利用では、沿道の商店と連携してオープンカフェ等を展開。
デジタル案内板は2画面で、上は時刻表、下はSRT事業の紹介やクーポンの発行等を実施。
トータルデザインも重要で、名古屋らしさを考慮したデザインに取り組む。

⑤ 合同会社ありまつ中心家守会社 武馬淑恵氏

『「日本遺産有松」のまちづくり』

・有松地区の特徴

3つの宝：有松・鳴海絞、東海道の町並み、有松天満社の秋季大祭。
鳴海、桶狭間、大高といった周辺を含めたまちづくり。

・有松の交通の課題

緑区は人口増加傾向にあり、有松や周辺も人口が増えている。
夜間は人がいるが、昼間は人が少ない（訪れる人も少ない）という状況。
地域交通の課題は、緑区内の公共交通機関の結節点がないこと。
JR線に向かう有松からの市バス路線が少ない。（1時間に1本程度）。
有松駅前にはレンタカーもない（鳴海と大高にはタイムズシェアあり）。

・取り組みの方向性

コインパーキングを活用した公共尾交通機関をつなぐ新たなモビリティの導入。
観光用、住民用の既存の都心型にはない新たなサービスの構築が必要。
徒歩から自転車になるだけでも行動範囲が大きく広がる。

・体制

ワーキンググループを設置して検討中。
（観光推進協議会、名鉄、市交通局、JR東海、まちづくり団体、名古屋市）

⑥ 自転車シェアリングサービス「チャリチャリ」neuet株式会社 田口大輔氏

・チャリチャリの概要

1分単位の料金形態、複数タイプから選んで使える。
ポート設置に地元企業が協力。

・チャリチャリが目指すもの

求められる移動：人・モノの質量にあった移動
選択肢を増やして選んでもらう。その一つがシェアサイクルと考えている。
都市の新たな「葉脈」が必要。
地域社会、公共交通事業者、行政、neuetの四方良しを目指す。
やりたいのは「まちづくり」。その一つの役割として包含されるように取り組みたい。

⑦ 那古野下町衆 カワカタミカコ氏

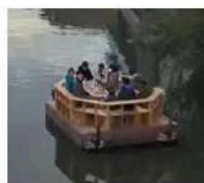
「那古野エリア観光回遊性を高めるためのシェアリングツールのススメ」

- ・那古野下町衆は、2007年に円頓寺商店街、円頓寺本町商店街、四家道商店主を中心にコンサルタント、建築関係者や大学関係者で集まって発足。点や線ではなく面で考え、イベント開催、防災、観光事業などに取組んでいる。
- ・近年は、観光スポットとして観光客も増えている。元々は生活商店街として住民に愛されてきたが、高齢化もあり、維持するためにも観光客が重要となっている。
- ・那古野エリアの課題に、回遊時間の短さがある。飲食店は多いが、“見る”“買う”が少ない。
- ・徒歩圏内に“トヨタ産業技術館”“ノリタケの森”“名古屋城”等があるが、土地勘がない人が公共交通を利用し移動することも難しい側面がある。
- ・手軽に使える移動手段として注目しているのが、近年ポートが増えているシェアサイクル。
- ・那古野エリアにもポートがあり、日常で使う人も多く、借りられない状況もみられる。また、名古屋中心街はポートがあるが、少し離れると少なく、円頓寺商店街でも空白の部分がある。
- ・名古屋城は行政区画なのでポート増やしていくというような課題もあるが、ポートを増やすことで回遊性が高まると考えている。
- ・那古野下町衆としてできること
 - シェアサイクルツールの周知 ⇒ 観光客が楽しめる案内やマップの製作
 - ポート増やす働きかけ ⇒ 長年活動してきた地の利を生かした企業との橋渡し
- ・那古野下町衆として、「観光客に楽しく快適に回ってもらいたい」「老若男女誰一人として不便があってはならない」をポリシーに、街に暮らす人と観光客の両者の声を聴き、バランスを取れる存在になっていく。

⑧ 円頓寺商店街 田尾大介氏

『利便性×娯楽性＝楽しい交通で人の行き交う街に！』

- ・MaaSで名古屋⇄円頓寺⇄名古屋城をつなぐ実証を行った。
- ・昔は、瀬戸線が通っていたり、路面電車は走っていたりと交通の要所でもあったが、今では目的がないと行かない場所になってきている ⇒ いつでも手軽に立ち寄れる場所にしていきたい。
- ・電動トックトックのシャトルで名駅三丁目と円頓寺商店街間を移動
円頓寺に来たら電動のパーソナルモビリティを走らせて移動
堀川に来たら、いかだ船（電動）に乗って。円頓寺のグルメを食べながら楽しむ。



- ・実証にも名古屋大学、都市再生機構、竹中工務店、炎重工の協力を得て実証をすることができた。
- ・回遊性を高め、名古屋を都市型二次交通の先進都市にし、1つの観光の目玉にしていきたい。

⑨ ささしまライブまちづくり協議会 鈴木修氏 中野正子氏

- ・協議会概要： オフィス、放送局、大学、行政等が連携し、国際歓迎・交流拠点を目指す。

- ・主な活動：賑わい創出のためにイベント、広報活動、地区内の清掃、シャトルバスの運行
- ・現状の課題：認知度が低い、アクセスが悪い（名駅からの地下歩道整備計画が遅れ）
地区全体を俯瞰した開発計画の欠如。堀止地区とコンセプトが別々で一体感がない。
（堀止地区再開発の事業も別であり、情報も入ってこない。）
- ・来場者増加につながる新しく目玉になる交通手段が必要（現状バスや鉄道もあるが、足りない）
- ・Zippar（電動自走式ロープウェイ）、SKYDRIVE（空飛ぶ車）、バス自動運転、マリナーライダー（水陸両用バス）
- ・YOKOHAMA AIR CABIN（都市型ロープウェイ）
官民連携し実現（官民連携するからこそ、国道や運河上空の運航許可が しやすい）



2. ミニ講演（近未来の交通に向けて）

① Zip Infrastructure 株式会社 須知高匡氏

『公共交通における、ベンチャーが開発するモビリティの役割について』

- ・「不快な移動」という社会課題の解決に取り組んでいる。
- ・渋滞による経済損失は日本+ASEAN 上位5か国で7.5兆円にもなる。
- ・バスは安く導入期間が短いけど運転手不足が問題となっており、会社ごとなくなる。
- ・赤字路線すら本数が減ることもあり、定時性が低く、渋滞に巻き込まれるという課題も。
- ・鉄道は建設、維持コストが高いが、定時性や渋滞の問題はない。
- ・建設コストが低く、短時間で建設でき、定時性がたかきを実現したい。
- ・Zipparのロープウェイとの違いは、ワイヤケーブルが固定され、キャビンが自走するという点（それぞれ独立して自動運転）
- ・建設費は鉄道の1/10で15億円/km程度。定時性が高く、渋滞に影響されない。
- ・2029年の公共交通化を目指す。
- ・人口が多く、路面電車がいないところは、バスターミナルでスタックが起こる。それをどう解消するか。独立した軌道交通が望ましいが、高い。
- ・リニモはもともとベンチャーがつくった。ベンチャーでも公共交通機関をつくれると思っている。
- ・公共交通はタクシーより事故率が二桁低くないといけな。現状、人の負っているリスクを自動運転が負えるかが難しいところ。したがって、道路以外での交通手段を検討するベンチャーが多い。
- ・路線上に太陽光パネルを設置し、ゼロエネルギーで運行することも考えている。
- ・来年から福島試験線で最終テストを実施する予定。
- ・2030の次世代交通のメインストリームを目指すとともに、モビリティによって価値観が変わる交通革命⇒地価の革命を目指す。

② 株式会社プロドローン 戸谷俊介氏

- ・2027年のドローン世界規模（軍用、民生用）は約3兆円（予測）。

- ・日本では、2023 年で 3828 億円、2028 年 9000 億円の日本の市場規模。
- ・世界の製造メーカ（民生用）はダントツで中国。中国は規制が緩くイノベーションが起きやすい。
- ・日本でも規制が緩和されてきている。
（「絶対に落ちるな」⇒国も“墜落安全”“危機低減”という言葉を使うようになった。）
- ・航空機技術審査センターは日本 1 箇所で、名古屋空港にある（レベル 4 で飛行可能な一種機体の型式認定）。
- ・日本の航空産業は中部に集約（フランス航空青年団が、各務原と小牧で航空を教えたことが経緯）
- ・ペイロード 20kg でレベル 4（有人地帯で目視外飛行）飛行の機体について、日本で初めて第一種型式認定受理（現在審査中）
- ・プロドローンが目指すドローン開発
 - 【平時】中山間部・離島であっても都市同様のサービス受益（デジ田）
オンライン診療・医薬品配送（美浜町～篠島で実証）。ドローンで配送しても医薬品は薬剤師が届けなければいけないなど、規制面での課題あり。
 - 【災害時】老朽橋梁等の点検、災害時のデジタルライフライン確保（国土強靱化計画）
停電時（基地局ダウン）に、ドローンを活用し、上空に無線基地局を置く。地上の圏外の微弱を特定し、電波から要救助者を特定。マイナンバーと紐づけて基礎疾患等と共有。
 - 【防衛】ドローンを活用した監視・補給の重要性【国家安全保障戦略】
完全自立飛行システム（AI で人建物を検知しながら飛行）で、広域監視・捜索：ドローンによるパトロールに活用（三重県は日本で一番産廃が多い等があり、牽制の効果もあるか）
- ・あいちモビリティイノベーションプロジェクト
基本構想：愛知で「令和の殖産興業を目指す」
次世代モビリティを活用した革新的ビジネスモデルを愛知県で構築⇒全国・世界に横展開することで社会課題の解決と需要拡大。
⇒愛知県の製造拠点が発展し、空モビリティ産業の集積地へ
2023 年度に推進プランの策定・イベントへの出展・ドローンを活用した実証実験の実施。

「空飛ぶ軽トラ」 SORA-MICHIとは

- ✓ 道を走り、ときどき空を飛ぶ
- ✓ 50kgのペイロード、50km飛行する
- ✓ 官民共同プロジェクト
- ✓ 手に入れやすい価格帯
- ✓ PRODRONE GCSでも空もコントロール

1. 目的

- 安心安全な飛行、人やモノの移動に「空路」がもたらした新しい価値を社会に届ける。
- 新たなモビリティ社会の発展に貢献し、デジタル社会の発展を促す。その社会実現を通じて社会課題を解決する。
- 空路は、航空や宇宙空間に比べて安全な移動手段であるためをきっかけに、次世代モビリティの裾野を拡大させる。

2. 目指す姿

空と道がつながる新しいモビリティ社会の実現（産業の振興）
空路の活用による社会課題の解決（防災・防衛）

3. プロジェクトチーム

空路の活用による社会課題の解決（防災・防衛）
空路の活用による社会課題の解決（防災・防衛）

PRODRONE SKYDRIVE
MEITETSU TERRA LABO
JTEKT VFR
愛知県

3. ディスカッション（まちづくりプロたちによるトークセッション）

<モデレーター>

名古屋学院大学 伊澤教授

<パネリスト>

Zip Infrastructure 株式会社 須知高臣氏

株式会社プロドローン 戸谷俊介氏

株式会社日建設計総合研究所 安藤章氏

木曾三川と堀川・上下流をつなぐ交流会実行委員会 秀島栄三氏（名古屋工業大学教授）

※秀島氏は当初出演者の欠席を受けて急遽参加

① 前半：モデレーターによる講演

（安藤氏）

・交通とウォークアブルについて

今回、国交省のプロジェクトと聞いている。

なぜやっているかを整理してみたところ、1965年を契機に自動車普及とともに公共交通利用者数が減少、衰退。この活性化が狙いと個人的に理解している。

自動車普及はまちづくりの視点でも大きな影響がある。コインパーキングが駅前に増えて景観が変わったり、GMの倒産・破綻でデトロイト市が空洞化する、など自動車社会は都市の体力をそぐものと感じる。

ウォークアブルの概念が注目されている。街に来る人が何で来るかで滞在時間、歩く距離が変わる。そして歩く距離が長いと売上額も伸びる。公共交通でウォークアブルな街を作ると、町が元気になる

・モビリティの多様化に関して

従来は各移動手段の役割分担がきまっていたが近年多種多様なモビリティがでてきた。

都市にとって有効なものはどれかが複雑になってきている状況で、色々なモビリティがある中でどう位置付けていくかを整理する必要がある

例：キックボードはメタ研究をみるとほとんどが観光。自由目的。→地域振興

その他にもグリーンスローモビリティ（池バスが社会実装）、ラウンドバレット、ロデム、様々あるがこれらがなぜ必要か？早いから対価を払うのではなく、コミュニティの醸成、ラストマイルの補完、観光振興など多目的に変化してきている。

・モビリティハブの考え方

各サービスで得手不得手があるので組み合わせも必要。

交通結節点が上手くできないと乗換の組み合わせが面倒だから車ということになる

注目されているのはシェアモビリティ、バスなどが一か所に集約したモビリティハブ。欧米では物流の荷物もここに集約している例もある。

従来は中心街と郊外を結ぶネットワークが、ハブによって周辺同士をつなぐネットワークができるのではないかと考えている

人との関係では「ウォークابل」。ウィーンの商店街などは車と人が混在している。
車道空間をつぶしてにぎわいのある空間を作ったり、コインパーキングを街のオープンスペースに利用しても面白い。
エリア単位で周回、ウォークابل空間を作り、次はエリアをつなぐ。
ただし、実行には地域住民の説得、空間整備が大変。そして持続可能な事業モデルの考察と実装も。

(伊澤氏)

地域と地域が連携する、というのは面白い視点。自地域を超えてどう連携するかは大きなテーマ。

(須知氏)

ウォークابلは大事だと思う。道路と道路に付帯する面積比率30%で大きい。これをどうやって減らすかは大きな問題。

ささしまもカッコいいと思ったが行きにくい。東京でもそういったところはある。高層ビルを建てて太くするとカッコいいが、道路を細くして人が歩けるようにするのも重要。歩ける街は大事である。

(伊澤氏)

名古屋は震災復興で公共空間のうち40%くらい占めているところもある。
道路をウォークابلに配分していくかはまちづくりにとっては重要なテーマ。

(秀島氏)

名工大で土木計画を専門にしているが今日の内容を受けて教科書を書き換える必要があるのではと感じた。具体的にはまちづくりと交通をつなげたテーマは今までにあまりない視点。

例：ドローン

点と線無しになるような取り組み。そういう視点を学生のうちから得るのは重要と考える。

例：水辺

交通量の多い少ないは需要を表し、交通そのものは派生需要としているが、水辺の活用に関しては交通そのものが目的(楽しみ・需要)となる。

それらは、移動を従来の通勤のための目的から変化していく。例えば、勤め先の帰りにどこかによる、など。実際に寄り道できる定期券も出てきており、ハードでの視点だけではなくサービスで改良の余地もあり、そこはシェアサイクルなどのスマホ、技術の発達がある。

サービスという意味では、「人間中心設計」の考え方(サービス視点、ユーザー視点)で技術を考えるアプローチが少ない、かけているが今日の取り組みはそちらからやっているのも印象的。

② 後半：「まちづくりを阻む壁」に関するディスカッション

(戸谷氏)

壁は2つ。まずは資金。名鉄、JTEKTに拠出いただいているが、なかなか厳しい
次に規制。国交省の無人航空機審査はMRJも通らないほど厳しい
医薬品を運ぶのも最後は薬剤師が渡すという薬事法上の規定あり

先ほど流した動画でも問題提起のため、敢えてその場面を入れている

(須知氏)

壁は同じく資金。補助金 10 億程度をもらっているが、全体では 50 億程度必要
電動キックボードが社会実装できたのはすごく大きな出来事
これはロビイングが徐々に進んできた証。本当に社会に必要なものはロビイングが重要
キックボードも当初は制限速度 15km/h だったが、自転車の実測値と比較
自転車と同速度の方がむしろ安全とのことで 20km/h が設定された経緯あり
ただ、ロビイングをするのも資金が必要になる

(須知氏)

いきなり作ると言われるとまず反対されるため、開発から関与いただくことが重要
当社も、市民向けの試乗会の開催や、学生向けのベンチャー社長講演等への登壇等を実施
開発から関与いただき、みんなでまちを良くしていく機運を醸成することが必要
開発に関与した経験が、また新しい取り組みにつながる

(鈴木氏)

新しいことをやる場合、協議会の中だけでなく、隣接する地域の方をいかに巻き込むかが重要
例えば、(JR の線路を挟んで反対側の) 米野の方は普段、ささしまに来ることはないと言われる
名駅南も含めて巻き込みながら進めたい

(田尾氏)

商店街メンバーは賑わいが増えて売り上げが増えれば嬉しい
ただ、住民は自分の安全、ゴミ等の問題に敏感
チャリチャリもドローンもそうだと思うが、設置する土地がないことが課題
土地は必ず誰かのもので、所有者の協力がないと進まない
土地の制約等、各地域の事情に対応できる柔軟性が必要

(田口氏)

仕事の半分は、ポートを置く土地がないか現地を回って徹底的に調べること
名古屋は石橋をたたく性質があり、飛び込み営業への警戒感が高い
コロナ禍のウーバーイーツ等の利用増加でシェアサイクルの利用が増え、認知度が上昇
一方、名古屋はコミュニティのつながりが強いので、事例が出来るとその波及効果が期待できる
当社はまちづくりに参加したいと考えており、まちにプラスになる提案をしていく
ただ、土地代を考えると(ポートを置くより)車を置いた方がペイしやすいのが現実
国や自治体への要望として、SDGs への貢献を評価していただきたい
補助金では持続性がないため、税制優遇等を検討いただきたい

(井村氏)

水辺に関する行政とのタグはまだない
今後を見据えると水上交通による行政上のメリットが徐々に見え始めている
将来の事業展開が展望できるようになると水辺利用はもっと進むのでは

(加藤氏)

水辺を使うといっても、運河は海という扱いで、必要な許認可が山ほどある
もう少し手続きを簡素化してほしい

(武馬氏)

新しい取り組みが始まることでプラスになる場合とマイナスになる場合がある
団体同士の対立に加え、住民の拒否感を招く場合も。賑わいが増えると迷惑にもなる
ただ、地域交通に関して言えば住民が便利になることは確実
単なる観光促進ではなく誇りになるようなまちづくりにつなげたい
開発時点から関わってもらふことの重要性には共感
古民家を改修する際も、工事現場の見学会などを開催

(福田氏)

空間的な制約はあるので全てを実現するのは困難
例えば、地域内にポートを置くことが困難な場合、近くのサイトを案内するなど
ソフト部分での連携も促進していきたい

(須知氏)

交通分野は男性が多いと感じているが今日は女性も多く感銘を受けた
若者や外国人にも参加いただきたい

(戸谷氏)

当社は着水するドローンで特許を保有。それにより木曾三川の流域を1つのまちにする構想も
名古屋は町内会、商工会、在名メディア、中経連等々、組織がしっかり
でも、組織にはヤンキーのような存在も必要。そういう人たちとも一緒に飲むことが肝要

(安藤氏)

以前は「需要があるのでこのモビリティを使う」という視点
銀座にはLuupとかがない。銀座のブランドを傷つけるという理由で旦那衆が反対
その地域のブランドを上げるようなモビリティが必要。池袋のイケバスがまさにそれ

(秀島氏)

昔、牛車で通っていた道を車の通る道にするには、それなりの思い切りがあったはず

行政も、もっと思い切りが必要

(井澤氏)

総括：まちづくりで重要なこと
商店・住民の利害調整およびそれができる人財づくり
開発段階から入ってもらふこと、地域の課題解決は広い視野を持つこと、地域の中を充実させるとともに地域同士をつなぐこと

以上

参加人数

応募者数 183名
(会場参加 92名)
(オンライン参加 91名)

当日の様子



4.アーカイブ

アーカイブはYoutubeに保存されており、視聴可能。

▶ 地域共創シンポジウム アーカイブ全編

<https://youtu.be/Y9fKiN-SjIY>

▶ 地域共創シンポジウム アーカイブ①オープニング～リレートーク

<https://youtu.be/YJmkJ2bUFR0>

▶ 地域共創シンポジウム アーカイブ②講演

<https://youtu.be/bmJGtwNsMYS>

▶ 地域共創シンポジウム アーカイブ③ディスカッション

<https://youtu.be/rxu4lWs0zYs>

地域共創シンポジウム youtube チャンネル

<https://www.youtube.com/@kyoso-nagoya758>

ハンドル

@kyoso-nagoya758